



旅立ちのお手伝い

〈東京都〉

小崎 綾子 あやこ 41歳

「娘の結婚式でバージンロードと一緒に歩きたい。それまではがんばりたいんだ」

Aさんは2カ月後に控えた長女の結婚式について看護師に話した。肺の病気で治療をしていたが、病状は増悪しており、2カ月先どころか1カ月後も分からない状態であった。「バージンロードと一緒に歩いて巣立つのを見送ることが、父親としての最後の仕事だと思うんだよ。それまでがんばらないとね」とAさんは話した。

医師より、Aさん家族へ残された時間が短いという説明があった翌日、長女より結婚式の前撮り写真を撮影するためAさんを外出させたいという相談があった。「父は結婚式には出席できないでしょう。花嫁姿を見せる

ことが、最後の親孝行だと思います」と話し、Aさんの外出を希望した。しかし、Aさんは「家族の写真は結婚式で撮ればいいだろう。写真のために、出掛ける必要はない」と話した。

Aさんの呼吸状態を考えると外出することは難しいが、花嫁姿を見せたという長女の思いをかなえるために外出できるように医師と方法を考え、Aさんと長女へ話した。しかし、Aさんは「写真を撮ることは意味がない」と拒否した。

私はAさんが「バージンロードと一緒に歩くのが父親の仕事」と話していたことを思い出した。そこで、長女とAさんに「病棟で結婚式を行いますませんか？ 車いすでなら娘さんと一緒に歩けますよ」と提案した。Aさんは「で

きるかい？ 手伝ってくれるかい？」と笑顔を見せた。

2週間後に病棟で家族だけの結婚式を行うこととなった。看護師たちで準備を行い、Aさんは10分程度車いすに乗れるように理学療法士と練習を行った。当日、廊下をバージンロードに見立て、モーニングを着て車いすに乗り、ウェディングドレスを着た長女と手をつないで廊下を進むAさんは笑顔でいっぱいだった。新婦の父からのあいさつで「父親としての役目は果たせました。皆さん手伝ってくれてありがとうございます」と涙を見せた。

数日後、Aさんは天へ旅立った。